

## (2) 小牧山新管理道設置工事に係る実施設計について

### ●目的

小牧市では、史跡小牧山を整備するにあたり、小牧・長久手の合戦時（天正期）の遺構を復元することを基本方針としており、これに従い、旧小牧市役所本庁舎跡地においても土塁や堀などの遺構を復元、公開している。この土塁や堀の東側には既設管理道があるが、昭和2年に作成された地形測量図などから、本来はこの既設管理道よりも更に東側へと土塁や堀が続いていたこと、山頂へと続く道の位置が既設管理道とは異なることがわかる。

小牧山は江戸時代以降、尾張徳川家の保護を受けており、明治6～22年に小牧公園として一般開放された時期を除いて入山が禁止されていたことから、昭和2年地形測量図はほぼ天正期の小牧山城の姿を表しているものと推測される。このため、遺構が改変を受けるなどして、発掘調査では本来の姿が分からない場合は、この地形測量図を元に遺構を復元することが可能である。

今回の実施設計では、発掘調査成果と昭和2年地形測量図から読み取れる情報を元に、来年度に予定している新管理道設置工事の工事発注用図面等の作成を行う。

### ●平成28年度実施の創垂橋北側における発掘調査によってわかったこと

- ・土塁の尾根部分は昭和2年地形測量図とほぼ同じ位置。一部削平を受けている。
- ・堀は昭和2年地形測量図よりも北西に位置している。
- ・通路は昭和2年地形測量図よりも南側に位置しており、土塁の山側裾を利用していたと考えられる。

### ●設計の方針

発掘調査の結果に基づき、次のとおり設計を行う。

- ・確認された土塁は保存、活用する。
- ・削平されていた土塁は昭和2年地形測量図を元に復元を行う。（一部現状を保存）
- ・堀は既設管理道下に位置すると想定される部分が多いため、今後の整備とする。
- ・新管理道は発掘調査で通路が確認された位置に設置する。
- ・既設管理道との接合点が昭和2年地形測量図での想定よりも西にずれ、青年の家へ行くためには折り返しが必要になること、接合点から青年の家へ至る既設管理道と新設管理道の高低差が3～4mほど生じることから管理道の途中に近道用の階段を設置する。

## 1. 設計対象地の概要



設計対象地は国指定史跡「小牧山」の指定地内で、平成 29 年度（予定）に始まる（仮称）史跡センター周辺史跡整備工事地に接する西側の場所で、斜面の樹林地と平成 28 年度に解体した「堀の内体育施設」跡地の平坦地である。

上位計画にあたる平成 27 年度に策定した「（仮称）史跡センター周辺整備基本計画」（以下、「基本計画」という）では、「遺構復元ゾーン」と「主園路（管理動線）」を整備する場所として位置づけている。その中で、土塁の復元等整備や既設管理道付替え等を計画している。

対象面積は、（仮称）史跡センター周辺史跡整備工事予定地と西側の既設管理道に挟まれた面積約 0.30ha の敷地である。

設計に際しては、「基本設計」の整備方針を踏襲するものとする。

### 整備方針

- ・発掘調査や昭和 2 年地形測量図で確認された土塁は、現況保存する。
- ・中学校建設に伴い削平された土塁は、昭和 2 年地形測量図を参考に盛土し、復元する。また、既設管理道へ向かう斜面は現況保存とする。
- ・堀は、既設管理道との地形や高さの調整が必要となること、また、H31 年度の発掘調査成果を反映させる必要があることから、今回設計には含まない。
- ・城郭構成上重要な土塁や堀を復元するために、既設管理道路は廃止し、その機能を代替する管理道路を新たに設ける。
- ・植栽等修景整備は、過去の整備手法を踏襲する。



（仮称）史跡センター及び周辺整備計画図

## 2. 発掘調査について（条件整理P-1からP-6図）

### ① 概要

- ・天正期（小牧・長久手の合戦時）のものと考えられる土塁、堀を確認した。
- ・調査地北側で、昭和2年頃に利用されていたと考えられる面を確認した。
- ・調査地北側から西側にかけて、現代土を中心とする堆積層が多くあることが判明した。

### ② 土塁について

【条件整理P-4（5ライン）、P-5（8ライン）、P-6（8東ライン）のピンク色の部分が土塁】

- ・調査地中央部の現在土塁状に見えているものは、若干表土の堆積は見られるが天正期のままの土塁である。
- ・8ラインで見られる土塁外側の勾配は1：1.0（45度程度）、堀底から土塁頂部までの比高差約8m。  
山側の勾配も外側と同様である。比高差は約1.5m。

### ③ 堀について

【条件整理P-5（8ライン）、P-6（8東ライン）の黄色の部分が堀】

P-4（5ライン）については、既設管理道のため調査を行っていない

- ・8ラインや8東ラインで確認された。
- ・堀底幅は約4.5m程度で地山面を掘削していた。
- ・堀内上部には、現代堆積土が1m以上見られる。
- ・5ライン調査では、既設管理道があるため、堀と思われる部分は未調査である。  
平成31年度実施予定の既設管理道の発掘調査に併せて確認する必要がある。
- ・昭和2年地形測量図では南東方向になだらかに下っていくと想定された堀が、8ラインあたりまで東に膨らんでいることが判明した。この先は大きく南方向に屈曲していると考えられる。

### ④ 土塁の山側の状況について

【条件整理P-3（3ライン）、P-4（5ライン）P-5（8ライン）の緑色（昭和2年面）表示】

- ・土塁の山側に昭和2年地形測量図で表現されている、通路として利用されていた面を確認した。（5ラインで幅約8m程度、土塁頂部との比高差は約1.6m程度）
- ・上記面の下は、天正期面や地山削平面の可能性がある。（8ライン参照）
- ・昭和2年面と考えられる上部には、現代土が厚く堆積している。（8ライン上部で最大4m）

### 3. 設計のための分析-1

#### ① 土塁の形状について

- ・土塁の尾根頂上の高さは標高 36.65m (5 ライン) で、そこから南東に下がり標高 36.56 m (8 ライン) までほぼ同じ高さで、現況地形から判断すると、現況尾根の東端から南東方向へ徐々に下がっていくと考えられる。(8 東ラインで標高 35.24m)
- ・5 ラインより西側は削平されており土塁の形状が不明である。
- ・土塁の裾は、現在の斜面下部とほぼ同位置にあり、土塁面上部には土砂が 8cm から 1.3 m 程度堆積している。
- ・山側の土塁裾は、昭和 2 年利用面とほぼ変わらない。場所によっては土砂溜りが 1m 以上ある箇所もある。

#### ② 堀について

- ・5 ライン調査地点では、現在と変わらない位置が堀であると考えられるが、8 ラインや 8 東ライン地点では現況よりも東側に堀があることが判明した。8 東ライン周辺で屈曲し、既設管理道沿いの斜面裾が堀であった可能性が考えられる。平成 31 年度に行う予定である調査を参考に検討する。

#### ③ 昭和 2 年当時の通路について

- ・5 ライン、8 ラインで昭和 2 年当時の通路と思われる面を確認した。5 ラインで幅約 6.7 m、8 ラインでも確認できた範囲は 6.8m であった。
- ・8 ラインでは、昭和 2 年当時の通路面と天正期の面がほとんど同じ面であったと考えられる。

### 4. 設計のための分析-2 [発掘調査と昭和 2 年地形測量図の比較] (条件整理 P-7 図)

- 現況地形線は青色とグレー線で表示、昭和 2 年地形測量図線は紫色で表示、発掘調査掘り上がり線は橙色で表示している。

#### ① 土塁の形状について

- ・土塁尾根の位置は現況線、発掘調査結果、昭和 2 年線とも変わらないが、昭和 2 年地形測量図に表現されている尾根の西端が現況では存在しない。発掘調査により削平されていることがわかった。
- ・8 東ラインで判明した尾根の形状は、昭和 2 年地形測量図でも表現されている。しかし現況では若干痕跡がわかる程度であり、中学校建設工事関連の整備で改変された可能性がある。

#### ② 堀について

- ・昭和 2 年地形測量図と発掘調査結果とは異なり、天正期では東側に寄っていたことが調査によりわかった。

### ③ 昭和2年当時の通路について

- ・5ラインでは、昭和2年線よりも南側を通路として利用していたと思われる面が確認され、土塁横を通路として利用していたと思われる。土塁との比高差は1.65mである。上部には、現代土が80cmから3m程度堆積している。
- ・8ラインでは、昭和2年線と変わらない調査結果であった。5ラインと同様に土塁横を通路として利用していたと思われる。通路と土塁の比高差は約1.4m程度である。また、上部は現代土が1mから4m程度堆積している。

## 5. 遺構の概要（条件整理P-8図）

発掘調査結果と昭和2年地形測量図の比較



- 土塁（調査で確認）
- 土塁（S2地形図で推定）
- 堀（調査で確認）
- 堀（S2地形図で推定）
- 昭和2年頃の通路（調査で確認）
- 昭和2年頃の通路（S2地形図で推定）

● 現況測量図と昭和2年地形測量図を比較してみると、土塁尾根部の形や位置は現況とほぼ同じである。堀は、既存管理道から東部にかけて堀であったと考えられる。昭和2年時に利用されていた通路周辺は、大きく変更されているのがわかる。

● 今回の発掘調査との比較をしてみると

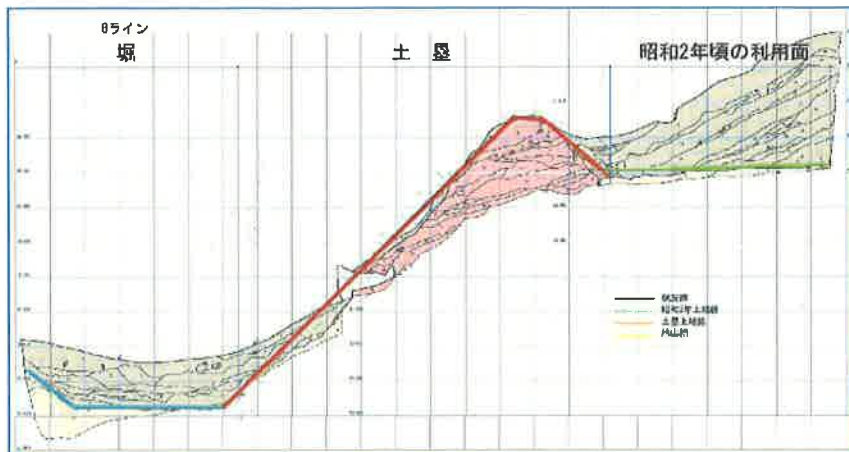
① 土塁は、昭和2年地形測量図で表現されている形で遺存していた。表土は薄く、現在見えている形がほぼ本来の土塁の形である。【調査断面5ラインや8ライン、8東ライン参照】

昭和2年地形測量図で見られる土塁最西端部では、いつの時点削平されたか不明だが、昭和2年の利用面が検出された。【調査断面3ライン参照】

② 堀は、昭和2年地形測量図よりも北西に入り込んでいることがわかった。今後の調査（平成31年調査予定）で堀の線形や裾部の確認が必要となる。

③ 昭和2年頃の通路は、天正期の面とほぼ同じ面を利用していたと考えられる。土塁山側の裾を利用し、桜の馬場や山頂へとつながっている。

遺構の標準的断面図



● 土塁の勾配は内側も外側も 1 : 1.0 (45度) と急峻で、堀との比高差は約 8m である。

● 昭和2年頃に利用していたと考えられる通路は、土塁のすぐ横を通り桜の馬場や山頂へ向かっていた。通路と土塁の比高差は約 1.5m である。

● 堀の底幅は約 4m を超え、形状は逆台形である。堀底は地山面を掘り抜いている。

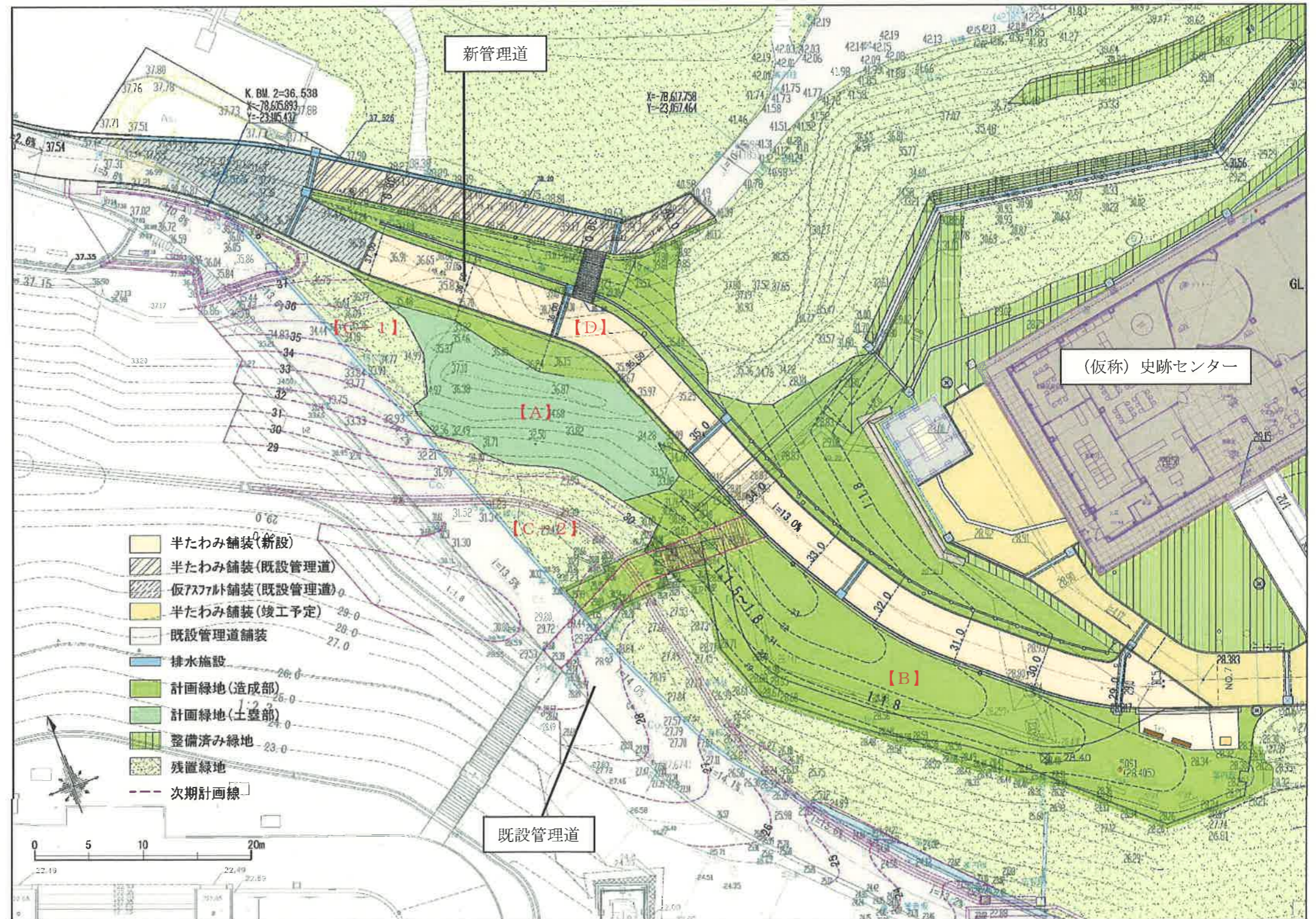


## 6. 整備計画

本設計対象地は、土塁と堀により構成されていた場所であり、平成 28 年度発掘調査でも、土塁や堀が遺存していることが判明した。それは、昭和 2 年地形測量図でも見てとれる。

整備にあたり、以下の点を配慮した設計とする。

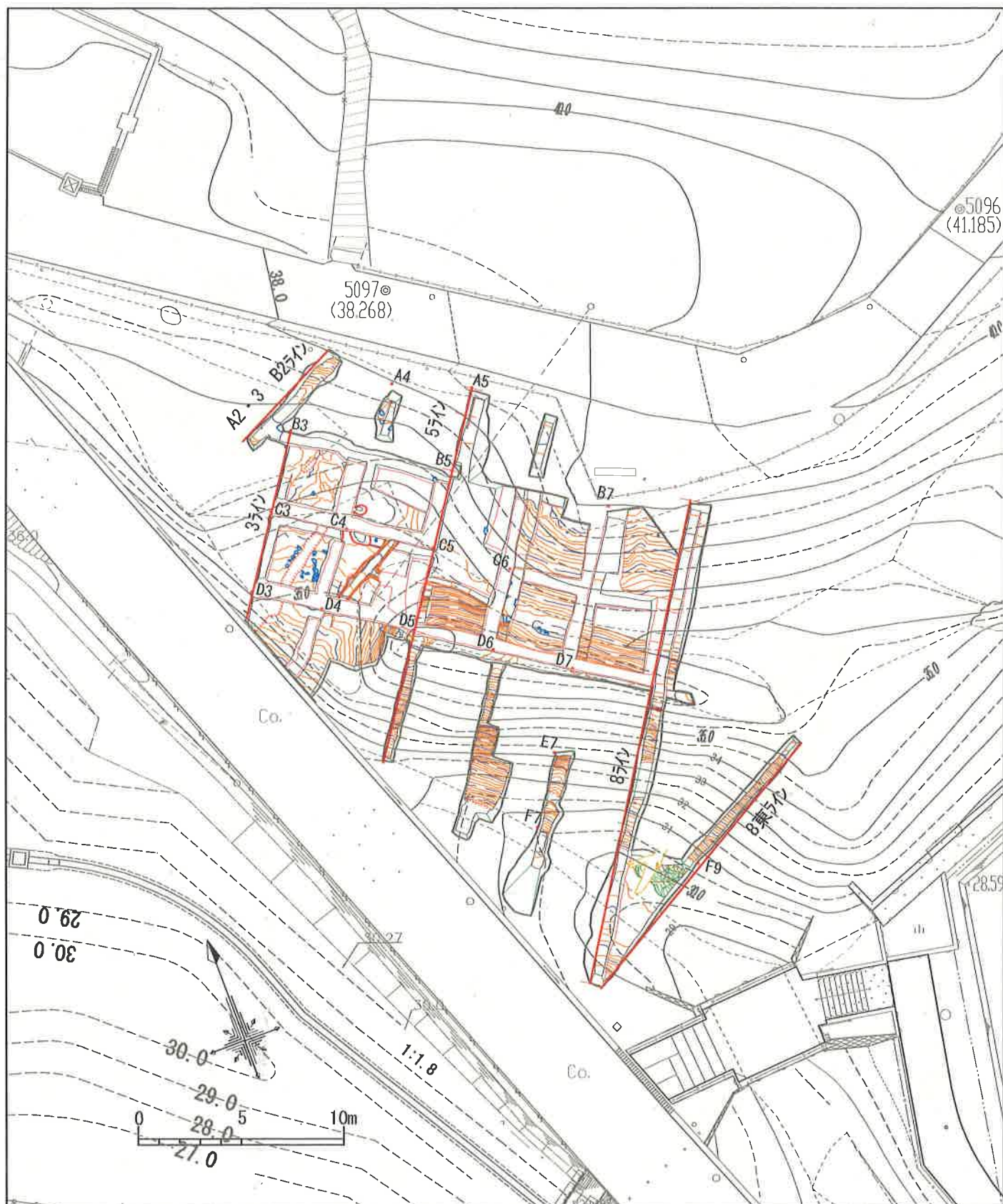
- 調査で判明した土塁は現状保存を基本とした整備とする。保存は、これまでの整備手法を踏襲し、笹等で土塁を保護、表現していく。【A】
- 史跡センター西側土塁は、明らかに改変されていると考えられるため、昭和 2 年地形測量図を参考に復元を行う。但し、既設管理道側斜面は、現状保存とする。【B】
- 管理道路の付替え時に発掘調査を実施し、堀の法線や形状等を確認した後、整備を行うこととする。C-2にある堀については、調査で既設管理道路下に遺存していることが想定されることから、今回の整備対象とはしない。【C-1、C-2】
- 昭和 2 年地形測量図で見られる通路は、発掘調査に基づき線形を復元していく。【D】



史跡センター一周辺新管理道部分整備計画図



1. 発掘調査平面図

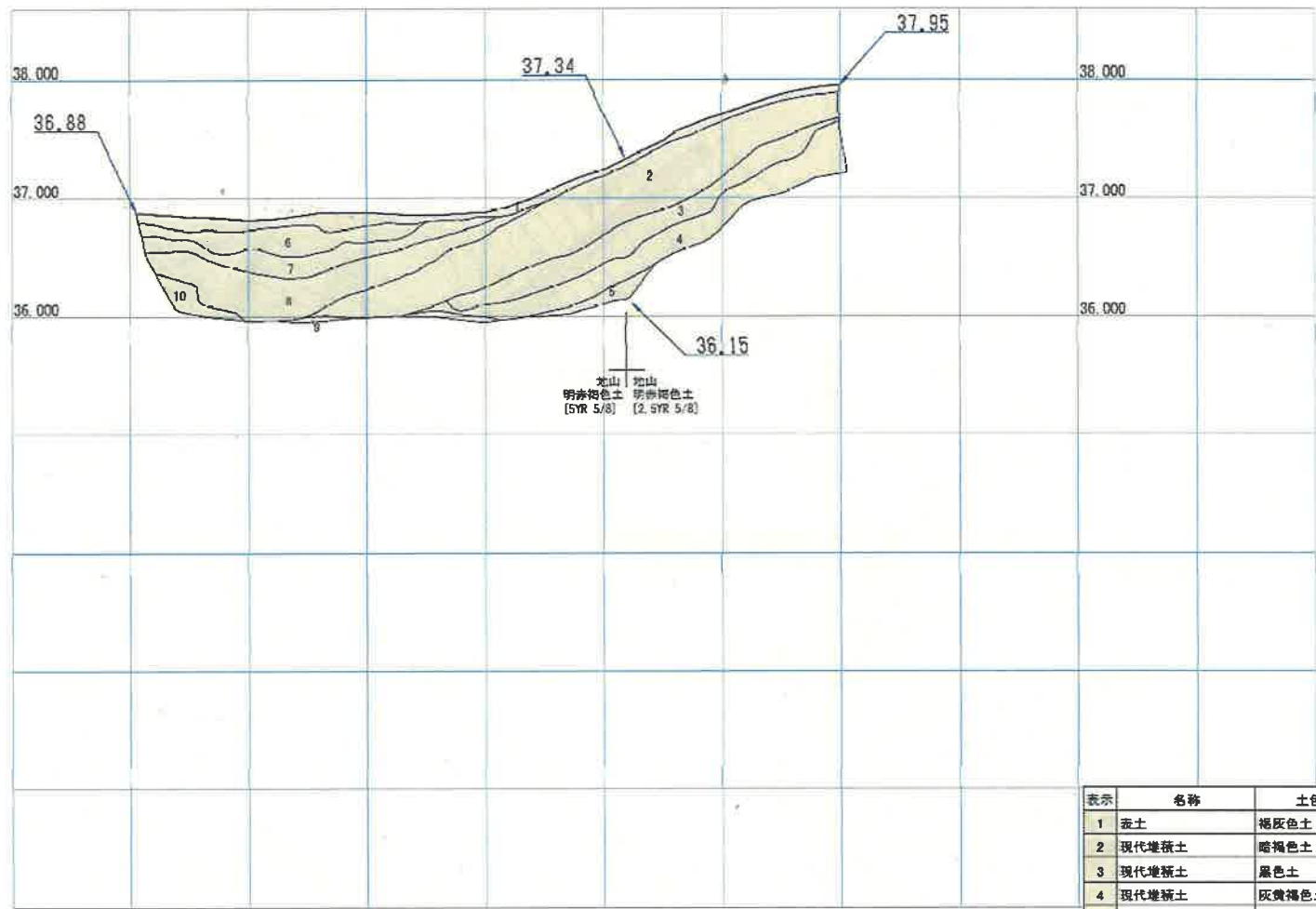




調査断面図 (A2・3 B2ライン)

A2・3 B2ライン

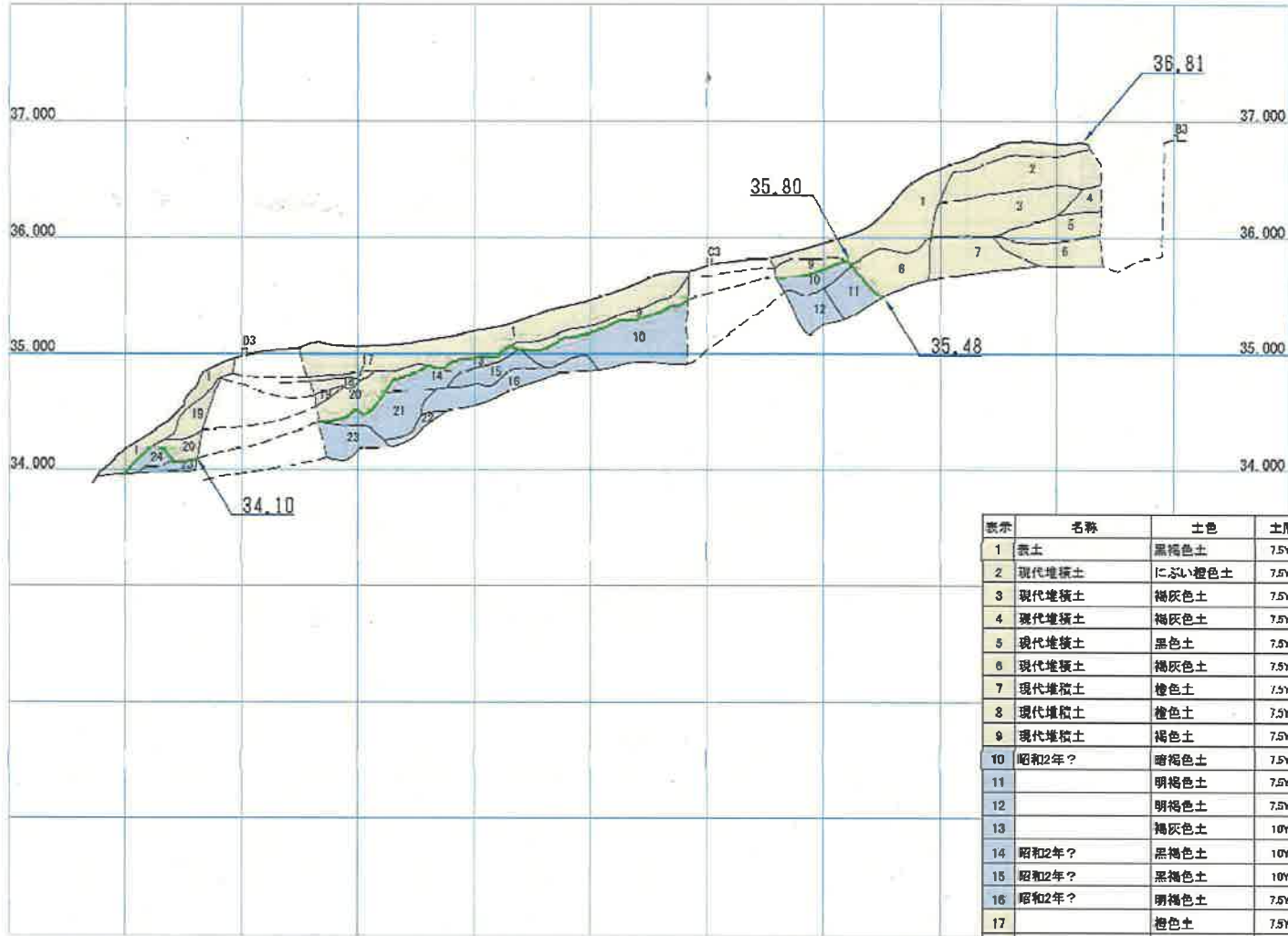
—— 現況線



表示	名称	土色	土層色調	観察
1	表土	褐灰色土	10YR 4/1	
2	現代堆積土	暗褐色土	10YR 3/3	1~10cm大礫多量、褐灰色土B混 10YR2/1
3	現代堆積土	黒色土	10YR 2/1	5cm大礫、コンクリート、ガラス片等現代物混
4	現代堆積土	灰黄褐色土	10YR 5/2	1~5cm大礫、褐色土B混 7.5YR6/8、やや砂質
5	現代堆積土	赤褐色土	5YR 4/8	5cm大の丸礫混
6	現代堆積土	褐灰色土	5YR 6/1	5mm大礫多量、やや砂質
7	現代堆積土	黒色土	10YR 3/3	木の屑、1cm大礫混
8	現代堆積土	暗褐色土	10YR 3/4	水分多量、褐灰色土B混 10YR4/1
9	現代堆積土	褐灰色土	10YR 5/1	やや砂質
10	現代堆積土	褐色土	7.5YR 4/6	褐灰色土B混 7.5YR4/1混

3ライン

— 現況線  
— 昭和2年上端線

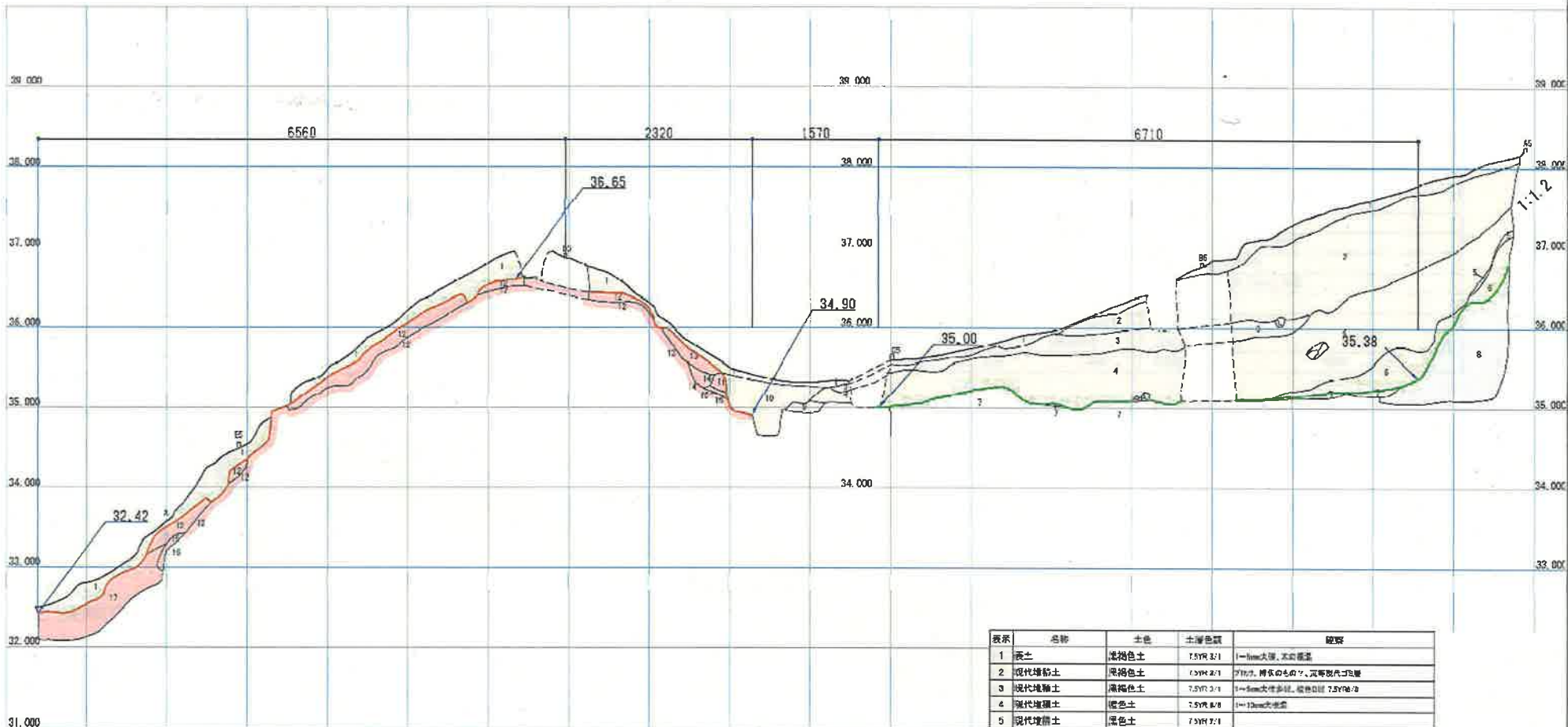


表示	名称	土色	土層記号	観察
1	表土	黒褐色土	7.5YR 3/1	木の殻
2	現代堆積土	にぶい橙色土	7.5YR 7/3	砂質
3	現代堆積土	褐灰色土	7.5YR 5/1	砂質
4	現代堆積土	褐灰色土	7.5YR 5/1	黒色土 7.5YR 2/1B混
5	現代堆積土	黒色土	7.5YR 2/1	炭化物多量
6	現代堆積土	褐灰色土	7.5YR 6/1	5-10cm大礫多量
7	現代堆積土	橙色土	7.5YR 7/6	
8	現代堆積土	橙色土	7.5YR 7/6	褐灰色土B混 7.5YR4/1混
9	現代堆積土	褐色土	7.5YR 4/6	
10	昭和2年?	暗褐色土	7.5YR 3/3	
11		明褐色土	7.5YR 5/6	
12		明褐色土	7.5YR 5/6	暗褐色土B混 7.5YR3/3混
13		褐灰色土	10YR 6/1	
14	昭和2年?	黒褐色土	10YR 3/1	黄褐色土混混 10YR7/8
15	昭和2年?	黒褐色土	10YR 3/2	
16	昭和2年?	明褐色土	7.5YR 5/8	
17		橙色土	7.5YR 6/6	褐灰色土B混 7.5YR5/1
18		黒褐色土	7.5YR 3/1	灰色土混 7.5YR6/8、明赤褐色土混 2.5YR5/6混
19		明褐色土	7.5YR 5/6	
20		黒褐色土	7.5YR 3/1	明褐色土B混 7.5YR5/6
21	昭和2年?	黒褐色土	7.5YR 3/1	
22	昭和2年?	黒褐色土	7.5YR 3/1	明褐色土B少混 7.5YR6/6
23	昭和2年?	黒褐色土	7.5YR 3/1	明褐色土B多混 7.5YR5/6
24		黒褐色土	7.5YR 3/1	礫混



# 5ライン

——— 現況線  
 ——— 昭和2年上端線  
 ——— 土塁上端線



表示	名称	土色	土層色数	説明
1	表土	褐色土	7.5YR 3/1	1→10cm大層、表面腐葉
2	現代堆積土	黒褐色土	7.5YR 2/1	200g、神衣の土の？、瓦等散在ゴミ層
3	現代堆積土	黒褐色土	7.5YR 2/1	3→5cm大層多量、褐色土層 7.5YR 2/2
4	現代堆積土	褐色土	7.5YR 3/3	1→10cm大層
5	現代堆積土	黒色土	7.5YR 3/1	
6	現代堆積土	黒褐色土	7.5YR 4/2	
7	昭和2年の面	黒褐色土	7.5YR 2/2	
8	昭和2年の面	明褐色土	10YR 4/6	
9	現代堆積土	黒褐色土	7.5YR 3/2	灰褐色土層 7.5YR 7/1.5cm大層多量
10	現代堆積土	黒褐色土	7.5YR 3/2	4→6cm、7cm大層多量
11	木の炭	黒褐色土	7.5YR 3/2	腐葉層
12	土塁積土	明褐色土	7.5YR 3/3	灰褐色土層 7.5YR 7
13	土塁積土	褐色土	10YR 6/3	灰褐色土層多量 7.5YR 7.1.5cm大層
14	土塁積土	赤褐色土	10YR 4/2	灰褐色土層多量 7.5YR 7
15	土塁積土	黒褐色土	7.5YR 3/2	
16	土塁積土	明褐色土	7.5YR 3/3	黒褐色土層多量 7.5YR 2/2
17	土塁積土	褐色土	7.5YR 3/4	

A3=1:50

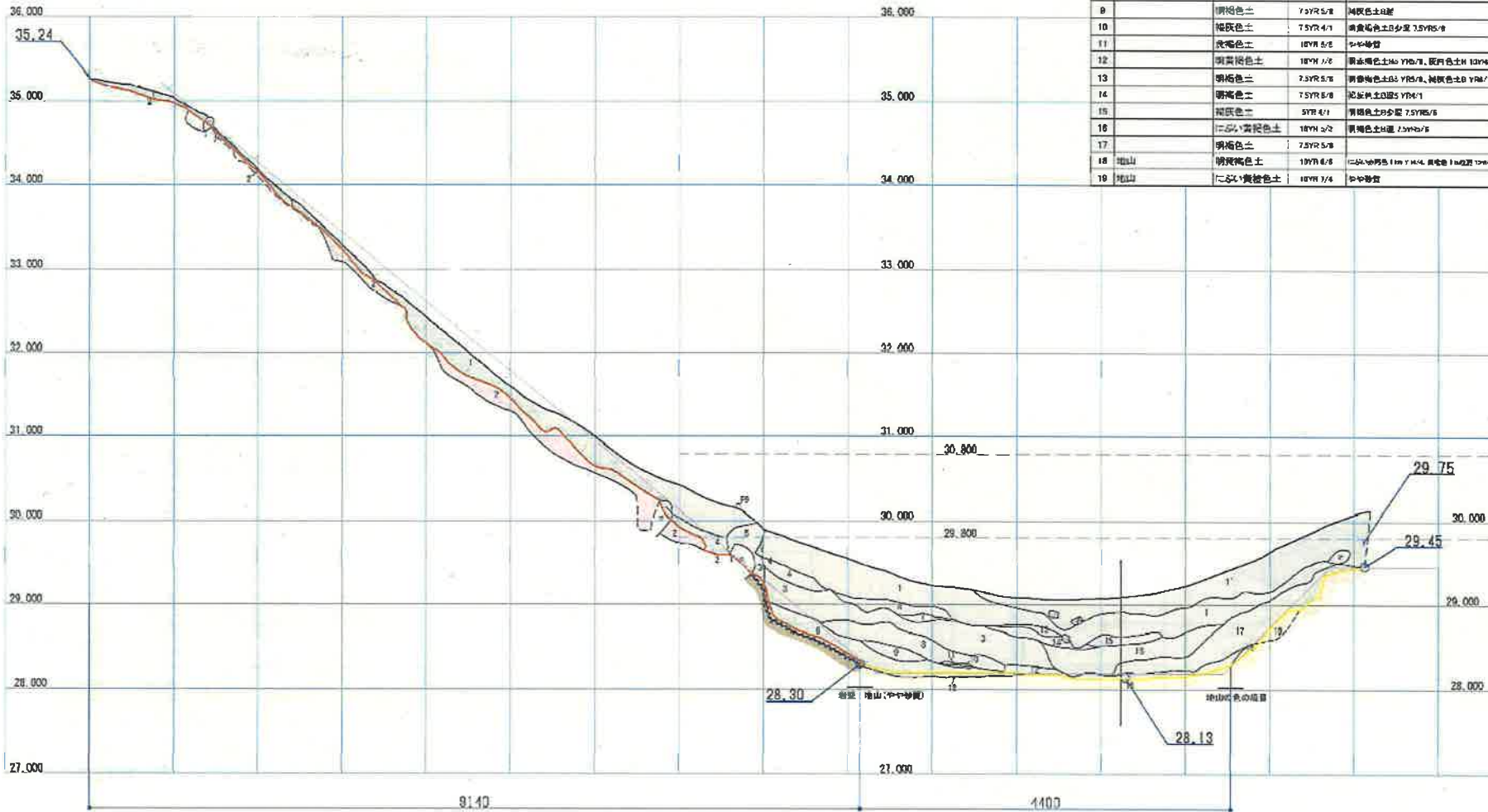




8東ライン

— 現況線  
 — 土塁上端線  
 — 地山線

表示	名称	土色	土原色調	観察
1'	表土・現代堆積土	暗灰色土	7.5YR 5/1	現代コンクリート、アスファルト多量、木の根多量
1	表土	暗褐色土	7.5YR 5/1	
2	土芯埋土	暗褐色土	7.5YR 5/2	
3	2の再堆積か?	暗褐色土	7.5YR 5/2	暗褐色土B区 10YR5/1
4	灰青褐色土	10YR 5/2	青褐色土B区 10YR5/2	
5	暗褐色土	10YR 5/1	木の根多量	
6	褐色土	10YR 4/1	木の根多量	
7	暗褐色土	7.5YR 6/2	灰褐色土B区 10YR5/2	
8	暗褐色土	7.5YR 5/2		
9	暗褐色土	7.5YR 5/2	暗褐色土B区	
10	暗褐色土	7.5YR 4/1	青褐色土B少量 7.5YR5/2	
11	灰褐色土	10YR 5/2	やや砂質	
12	黄褐色土	10YR 7/2	黄褐色土H区 7YR7/2、灰褐色土H 10YR6/1量	
13	暗褐色土	7.5YR 5/2	青褐色土B区 7YR5/2、暗褐色土B 7YR5/1量	
14	暗褐色土	7.5YR 6/2	暗褐色土B区 7YR4/1	
15	暗褐色土	5YR 4/1	青褐色土B少量 7.5YR5/2	
16	にじみ黄褐色土	10YR 5/2	黄褐色土B区 7.5YR5/2	
17	暗褐色土	7.5YR 5/2		
18	地山	暗褐色土	10YR 4/2	にじみ黄褐色土H区 7YR4/2、暗褐色土H区 10YR4/2、やや砂質
19	地山	にじみ黄褐色土	10YR 7/2	やや砂質

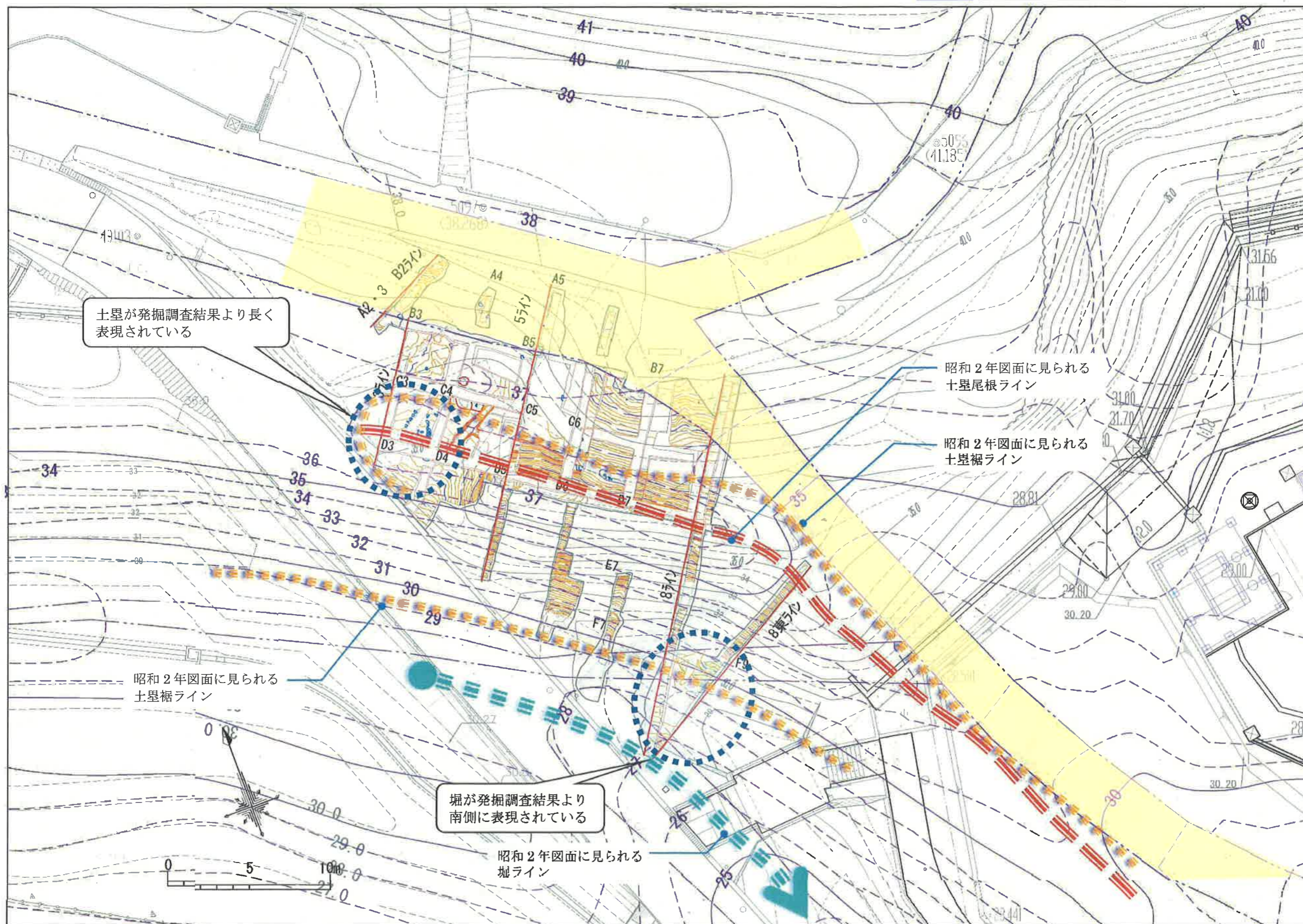


A3=1:50



### 3. 発掘調査と昭和2年地形測量図の比較

昭和2年当時の通路





4. 発掘調査から推定される遺構の形状

